

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
大阪保健福祉専門学校		平成9年2月6日	近藤 雅臣		〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原1-2-47 (電話) 06-6396-2941		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 大阪滋慶学園		昭和63年11月1日	浮舟 邦彦		〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119		
目的	本校の建学の理念に基づき、高齢者並びに障害者に対する専門知識、技術を身につけ、福祉に貢献する介護福祉士を養成する。人間愛の眼差しを持ち、福祉にとどまらず医療等の関連領域への理解を深め、高齢者、障害者介護に関わる人々の間で連携を図り、活躍する有能な人材育成を目標とする。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	介護福祉科		平成10年文部科学省告示第179号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2482	1290	720	472		
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		102人		5人	23人	28人	
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日 ※必要がある場合、学校長が上記に定める前期の終期および後期の始期を変更する。 			成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績の評価は学則第23条に定めるところにより、試験のほか、学業状況を勘案して行い、各学科とも最終学年の終わりには卒業試験を行う。所定の授業日数の3分の1以上欠席している者はその科目について評価を受けることができないので、進級または卒業することができない。また、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1未満であっても、各科目及び実習にかかる出席時数が所定の時数に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 		
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始め: 学校長が定める日 ■夏季: 学校長が定める日 ■冬季: 学校長が定める日 ■学年末: 学校長が定める日 			卒業・進級条件	授業科目の成績評価は、各学科で定める試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。また、各科目の授業時間数の3分の1以上欠席した者は、その科目について評価を受けることができない。上記の評価に基づき、履修認定会議、卒業・課程修了判定会議を経て、学校長が行う。		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制: 有 			課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 学外実習、ボランティア 		
	<ul style="list-style-type: none"> ■長期欠席者への指導等の対応 各担任が電話をし、必要ならば保護者との面談も即座に行なう。 				<ul style="list-style-type: none"> ■サークル活動: 有 		

就職等の 状況	■主な就職先、業界等 特別養護老人ホーム、介護老人 保健施設など	主な資格・ 検定等	介護福祉士
	■就職率 ^{※1} : 100 %		
	■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 93.3 %		
	■その他		
(平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)			
中途退学 の現状	■中途退学者 6 名	■中退率 4.2 %	
	平成27年4月1日 在学者 144 名	(平成27年4月1日 入学者を含む)	
	平成28年3月31日 在学者 138 名	(平成28年3月31日 卒業者を含む)	
■中途退学の主な理由 進路変更、意欲喪失、経済的			
■中退防止のための取組 キャリアサポートアンケートの実施、担任制、学生カウンセラーの配置など			
ホームページ	URL: http://www.ochw.ac.jp/		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものである。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本科においては厚生労働省指定の教育課程を履修することになり、その科目の中で企業等と連携する授業科目については「介護実習Ⅰ」や「介護実習Ⅱ」が該当する。各実習においては、連携する企業等と実習を行う学生(以下、実習生とする)を指導する者(以下、実習指導者という)それぞれに指定要件が求められる上、

企業等の受入れ人数が学生数より不足している場合は、新たに受け入れ可能な企業等を探し、実習施設変更手続きを厚生労働省へ行わなければならない。また既に指定を受けている企業等においても、毎年度の実習生の状況を把握した上で適切な指導を行っていただく必要がある。そのため本科では、両科目の開講前年度から各企業等に実習受入れの依頼にあたり、実習受入れ人数と実習指導者の有無等を確認する。受け入れ承諾が確認できた企業等の実習指導者を毎年2月に開催する「実習指導者会」に出席いただき、本校から前年度の実習状況の報告や実習の段階別到達目標などを説明しつつ、各企業等の実習指導者からの要請も踏まえて、各実習の質の向上に努めている。今後は教育課程編成委員会等でもこれらの結果を活用し、委員会の審議を通じて示された企業等の要請、その他の情報や意見を十分に活かすことで、実践的かつ専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成に努める。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
近藤 雅臣	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 学校長
豊田 百合子	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 副学校長
今村 健次	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 事務局長
土岐 一成	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 教務部長
川村 真弓	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 教務部長
藤原 孝之	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 介護福祉科学科長
浅野 幸子	公益社団法人 大阪介護福祉士会 会長
芳田 侑也	社会福祉法人 幸和会 特別養護老人ホーム ふるる フォアリーダー
今仲 学	株式会社 かいご職人 代表取締役

(開催日時)

第1回 平成28年 8月26日 18:00～19:30

第2回 平成29年 1月25日 18:30～20:00予定

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
介護実習Ⅰ	学んだ知識や技術を応用活用し、実践的な技術等を体得する。利用者との人間的な関わりを通して、求められる理解力・判断力を養う。	身体障害者療護施設 愛光園、西宮すなご医療福祉センター、西淡路希望の家、千里寮、地域生活支援センター 光、住吉総合福祉センター、だんけのその「ポレポレクラブ」、きらら作業所 等 32施設
介護実習Ⅱ	学んだ知識や技術を応用活用し、実践的な技術等を体得する。利用者との人間的な関わりを通して、求められる理解力・判断力を養う。	社会福祉法人堺暁福祉会 特別養護老人ホーム あけぼの苑、社会福祉法人妙光会 特別養護老人ホーム コモンズ三国、医療法人健和会 介護老人保健施設 ふれあい、社会福祉法人 芙蓉福祉会 介護老人福祉施設 ケアセンター水都ホーム、医療法人祐生会 みどりヶ丘介護老人保健施設 等 計46施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

研修等は教員研修規程に基づき、法人本部並びに学校が教員個々の教育経験、在職期間等を考慮し、各教員の希望も踏まえ、研修計画を策定し、研修を受ける機会を提供する。その内容は教員の授業内容・方法及びクラス運営方法などを改善、向上させるとともにマネジメント能力を含む指導力の習得、向上させるためのものとする。本科では大阪保健福祉専門学校の教員として、介護福祉士養成課程の教員として、また自身の専門性を高めるものとして、各研修等を計画的に受講させている。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
近藤 雅臣	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 学校長
豊田 百合子	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 副学校長
今村 健次	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 事務局長
土岐 一成	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 教務部長
川村 真弓	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 教務部長
吉崎 歌葉子	学校法人 大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 教務副部長
三井 佐代子	独立行政法人 国立循環器病研究センター 看護部長
平田 俊美	大阪保健福祉専門学校 保護者代表
和田 芳郎	北中島地域活動協議会 民生委員
青砥 正壽	大阪府立柴島高等学校 校長
加藤 正人	社会福祉法人 隆生福祉会 管理統括部 統括部長
中川 るみ	日本福祉図書文献学会 代表理事

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: http://www.ochw.ac.jp/wp-content/uploads/gakkou/jyouhou/021_2.pdf

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.ochw.ac.jp/gakkou/approval>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報科学	コンピュータの操作方法（ワード・エクセル・パワーポイント）を学ぶ。	1通 2前	90	3	○			○			○	
○			福祉英語	英会話に親しみ、福祉分野における多様なコミュニケーションを学ぶ。	1通	60	4	○			○			○	
○			国際福祉論	海外の福祉と文化を学び実際に見学体験をする。外国・異文化圏の福祉観や制度に触れ、福祉の展望や課題について考える。	2後	30	1	○				○	○		
○			介護福祉特講「地域福祉」と「介護予防」	「生活」「家庭」の視点から地域福祉の現状・展望を学ぶ。「介護予防」の視点から地域福祉の課題と展望を学ぶ。クラス、グループ活動を通して協働とリーダーシップについて学ぶ。	1前 2通	90	6	○			○			○	
○			介護福祉研究	高齢者の楽しみ活動の支援・介助についてグループ研究として取り組む。知識を専門的に身につけ論文を作成・発表する。	1後 2通	90	3	○			○		○		
○			試験対策講座	国家試験等の傾向と対策において介護福祉士の知識技術を確認する。また、検定試験の合格を目指す。	2通	60	4	○			○			○	
○			手話	聴覚障害者とのコミュニケーションの基本的知識、技術を身につける。	1後	30	1	○			○			○	
○			健康科学講座	介護予防を学ぶ1つとして健康分野とケア分野の専門知識を理解し日常生活動作向上につなげる技法を身につける。	2通	60	4	○			○			○	
○			人間の尊厳と自立	介護における尊厳・自立保持の支援や介護場面における倫理的課題を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			人間関係とコミュニケーション	介護実践に必要な人間理解、他者への情報伝達に必要なコミュニケーションを学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			社会の理解 I	個人を家族・近隣・地域・社会の単位でとらえ人間の自立について、および我が国の社会保障を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会の理解Ⅱ	介護保険制度、障害者の自立支援を担う法制度、介護実践と諸制度を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
	○		現代社会と職業	現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性を学ぶ。現代の職業を通して人間の生き方を考える。 職業と言語(国語力)について学ぶ。	1通	60	4	○			○				○
○			生命科学Ⅰ	人間の生命・生命の維持、健康・健康の維持について基礎的な知識を学ぶ。	1前	30	2	○			○				○
○			生命科学Ⅱ	生命科学Ⅰを基礎に、バイオサイエンスの基礎や実際の高齢者介護の現場での医療者との連携についても学ぶ。	2後	30	2	○			○				○
○			介護の基本Ⅰ	尊厳を保持し、自立に向けた生活への介護、介護の専門的役割、ICFについて学ぶ。死生観について考える。	1通	60	4	○			○				○
○			介護の基本Ⅱ	介護福祉士の役割、介護実践の連携、安全確保とリスクマネジメント、健康管理について学ぶ。	1前 2後	60	4	○			○			○	
○			介護の基本Ⅲ	「生きがい」支援を学ぶ。レクリエーション活動の支援に必要な基本を身につける。関連する療法について学ぶ。	1後 2前	60	3	○	○		○			○	
○			コミュニケーション技術(理論)	援助的コミュニケーションを理解し、多職種連携のためのコミュニケーション力を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
○			コミュニケーション技術(演習)	援助的コミュニケーションの技術(点字)の基礎を習得する。	2前	30	1		○		○				○
○			生活支援技術Ⅰ(理論)	家庭生活(小規模多機能・ユニットケア・グループホームも含む)の基本、家事の介護、緊急時の対応について学ぶ。	1前	30	2	○			○				○
○			生活支援技術Ⅰ(演習)	調理・被服実習を通して高齢者の生活の実際を学ぶ。	2後	30	1		○		○				○

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生活支援技術Ⅱ (理論)	アセスメント・身支度・移動・食事・入浴・排泄・睡眠・終末期の介護の知識を学ぶ。	1通	60	4	○			○		○		
○			生活支援技術Ⅱ (演習)	アセスメント・身支度・移動・食事・入浴・排泄・睡眠・終末期の介護を演習を通じて学ぶ。	1通	##	4		○		○		○		
○			生活支援技術Ⅲ	尊厳の保持の観点から自立的な生活を支援するために、多様な利用者に応じた適切な介護技術を学ぶ。	2通	60	2		○		○		○		
○			介護過程	知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案する。適切な介護サービスの提供の為に介護看護の連携を学ぶ。	1後2通	##	10	○			○		○		
○			発達と老化の理解	成長と発達、老年期の発達成熟、老化に伴う変化と生活《心身》、高齢者と健康について学ぶ。	1前2前	60	4	○			○			○	
○			認知症の理解	認知症者の体験や意思表示が困難な特性を理解する。本人のみならず家族や周囲の環境にも配慮した介護を学ぶ。	1後2前	60	4	○			○		○		
○			障害の理解	障害者の心理や身体機能に関する基礎的知識を学ぶ。本人のみならず家族や周囲の環境にも配慮した介護を学ぶ。	1通	60	4	○			○		○		
○			こころとからだのしくみ	介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスにおける安全への留意点、心理的側面への配慮・ケアを理解する。多様な障害について理解を深める。	1通2通	##	8	○			○		○		
○			こころとからだのしくみ (応用)	人間の心、身体のしくみの複合問題について学ぶ。	1後2前	60	4		○		○			○	
○			医療的ケア	たんの吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部）、経管栄養（胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養）、救急蘇生に関する知識や技能を習得する。	1後2通	90	6	○			○		○		
○			介護総合演習	介護実習Ⅰ、Ⅱについて総合的に学習する。また介護看護の連携を行い他職種の理解をする。	1通2通	##	8	○			○		○		

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			介護実習Ⅰ	学んだ知識や技術を応用活用し、実践的な技術等を体得する。利用者との人間的な関わりを通して、求められる理解力・判断力を養う。	1後	96	2			○	○	○		○	
○			介護実習Ⅱ	学んだ知識や技術を応用活用し、実践的な技術等を体得する。利用者との人間的な関わりを通して、求められる理解力・判断力を養う。	1後 2前	##	8			○	○	○		○	
合計				35科目				2482単位時間(127単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
授業科目の成績評価は、各学科で定める試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。また、各科目の授業時間数の3分の1以上欠席した者は、その科目について評価を受けることができない。上記の評価に基づき、履修認定会議、卒業・課程修了判定会議を経て、学校長が行う。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。